

遠き春も、まぶたを閉じると見えてきます…

3月20日は、二十四節気のひとつ「春分」です。春分は昼と夜の長さが同じになり、この日を境に昼がだんだんと長くなっていき夜が短くなる季節の節目となる日です。冬が終わりを告げ、春の訪れが感じられる日を、昔から人々は自然に感謝し春を祝福する日として祝ってきました。厚崎公民館の花壇のフキノトウも誇らしげに開き、桜の花のつぼみも白く膨らみ始め、日に日に春の訪れが近づいています。

一方で、新型コロナウイルスの大きな影響により、これまで外出自粛や飲食店等の営業時間短縮など国をあげての感染防止対策に取り組んできました。また、日本でもようやくワクチン接種が開始され、一筋の希望の光も見えてきましたが、このコロナの収束には、まだまだ時間を要することになりそうです。

この長い自粛生活での慣れもあるのですが、ここで気を緩めることなく、すべての人が一丸となって感染防止対策に取り組んでいけば、コロナ収束の日は必ず来るはず。冬が終わりを告げ春が訪れるように、きっとその日が来ることを信じて、みんなで頑張っていきましょう！



春の訪れを待つ桜のつぼみたち



寒さの中でも元気に開いたフキノトウ



3月1日現在
厚崎地区
人口13,839人
男6,869人
女6,970人
世帯数5,883戸



「地域のためにできること」厚崎中学校からの贈り物です



寄贈してくれた2年生



ホッとひといきベンチ



寄贈してくれた3年生



エコバッグ



子ども用マスク



宝石石けん

厚崎中学校では、「地域のためにできること」をテーマとした学習が進められていますが、特に今年度は新型コロナウイルスの影響により、地域と交流する機会が激減してしまいました。

しかし、コロナ禍においても生徒たちは地域に目を向けることをあきらめずに、様々な取組を展開してきました。これまでは、「メッセージしおり」、「シトラスリボン」、「高齢者への絵手紙」などの取組が行われ、地域の皆さまへの感謝の気持ちが伝えられてきました。

そして今回も、地域貢献活動として生徒が作ったプレゼントが厚崎公民館に寄贈されました。

一つは、2年生が主体となった「ホッとひといきベンチプロジェクト」です。廃校となった小学校のベンチを生徒自らがリノベーションし、新しく生まれ変わったベンチが寄贈されました。これらは市役所や厚崎公民館、くろいそ運動場、那珂川河畔公園に寄贈され、利用される市民の方々の癒しの空間になればとのことでした。

もう一つは、3年生が主体となった「エコバッグ」、「子ども用マスク」、「宝石石けん」の製作です。「地域の人役に立てること」をみんなで話し合い、心を込めて作っていただきました。これらは、厚崎公民館を通して地域の皆さまへお配りする予定です。数に限りがありますが、どうぞ楽しみにお待ちください。